

中斎塾 東京フォーラム  
平成 27 年度 第 9 回講話

平成 27 年 10 月 10 日  
於 湯島聖堂

**ベルリンへ参りました**

最初にベルリンのことを申し上げます。ベルリンへ参りましたので、お土産を買わなければということですが、なかなか買う時間がございまして、ふと谷口さんのやり方を見ていると、実に時間の使い方が上手でサッと見てパッと取って買う。体は大きい細かい配慮・動きができる、何てことを考えながら、僅かな時間の中でサッと買って来た物です。どうぞ味わってください。

今回のベルリン行きは、「愛と魂について」という話をさせていただきました。ただ予定していた人も何かの事情で来れなくて 7 名でした。それで今回御一緒していただいた御二人も当然の如くメンバーに入ってしまいまして、それで 9 名。予定者を著しく下まわった場合には、やはり謝らなければいけないなと思っています。ただ、あまり強く言うところちょっと気の毒かなと思ってこういう言い方をしました。

会社を経営している人間は、自分の判断で会社が左右されるので責任が重い。従って自分の言動に不安を感じた場合、はっきり言えば「君、認知症になったよ」とか言ってくれる人はいますか。または自分の判断基準として、年輩になったら香りが感じられなくなったら危ないと思えとあります。私の知っている方は「キンモクセイの香りを感じなくなった。だから危ない」と、御自分で言っておられた。自分で分かっている場合は良いのですが、分からない時は、信じる人間に言ってもらった方が良いという話をしまして、「木内顧問には、そういうことを話してくれる人はいますか」と聞きましたら「一人います」と言っていました。でも私は「それは少ない。もう一人二人は増やした方が良い」みたいな話をしました。そしたら顧問曰く「何か気になる事がありましたか？具体的に教えてください」と言いますので、「見ていて思うのは歩き方が悪くなった。これは問題ですよ」と。そうしましたら「どういう風に悪いんですか」と言いますので、「猫背になり身体がガクッと落ちて歩くようになっていきます」と言いまして、実際にやって見せたら「一番嫌な歩き方をしている。家内からも猫背になるなと注意されている」そうです。それから「まだありますか」と言いますから、「話をしている、つい忘れるでしょう」と言いました。話の中で言ったことをやらない。自分が言ったこと自体を忘れてしまう。

私に「愛と魂」のスピーチは、他の参加者は日本語が分からないので 20 ぐらいのセンテ

ンスに分けて通訳の方に話してもらおうから、必ず区切りを作って原稿を書いてくれと事前に言われました。当日は興奮してしまって喋りっぱなしで、通訳の方は私に通訳してくれる暇を与えなかった。私は席を外して他の部屋に行って寝ておりました。

そこらへんも踏まえて、顧問は私にあれだけ他の人は日本語が分からないから英語で通訳する場合の為に、こういう原稿を事前に出せと注文して、私が日本語しか出来ないのを分かっている、何で通訳する時間を与えてくれないんだと話したら、すみませんと言っていました。その時に「すみません」と同時に皆の前で言ったのは「明日は日本語で話をして、それから英語で話しますから」という言い方をしていました。

(谷口幹事) でも、ご飯を食べたら忘れてしまっていました。

これはもう笑い話になるけれども、自分でもよくある話です。重要であると思っていれば約束は守りますが、そんなに気にしないでいけば忘れてしまう。

ちょっと話が逸れますと、今、唯識学を勉強しています。今年いっぱい唯識学を一段落にしようと考えたら、谷口さんから「東洋は勉強しましたが、西洋はどうでしょう」と。物知りの人は困りますね。ちょっとそっち方面で、フロイドの精神分析からいえば、大事だと思っている時は、つい違うことを言うてしまう。

例えば、衆議院の議会で議長が「定足数に達しましたので、開会を宣言いたします」と言って木槌を叩きますが、大事だと思っていると、つい「閉会を宣言いたします」と、逆のことを言うてしまう。

大事だと思えば思うほど、言おうと思うものとは全然違うことを言うてしまう。特に腹の中で思っている本音と強制されて言うべき科白が違う時は、つい本音が出てしまう。

ということで、ベルリンで愛と魂のスピーチについては、あれだけ色々言われたので用意していた原稿をだいたい原稿通りで話をしました。書いてなかったのですが、谷口さんがよせばいいのに「質疑応答を」と振ったら、一斉に出てきました。その日は結果として、私が話したもので何か土台が出来て色々な国の人が居られたけれども、だいぶ興奮されてディスカッションをしていました。

日本から参加した東北大学の先生が最初に日本語で趣旨を説明されていましたが、私は簡単なことで行き詰まっているなと思いました。

簡単なことというのは環境問題ですが、日本にヒントはあります。西洋の方は…、西洋に限らず日本以外の国の方々は理屈で分かろうとする。言葉での説明を求めるという習性の人達ですから、出雲大社と伊勢神宮を研究されると良いと話しました。式年遷宮という千二百年前から営々と建物の造り直しをしています。ご存知の通り神様の引越しです。出雲大社は六十年という単位で、宮大工さんは弟子の時に技術を教わって腕を磨いて一人前になったら、また次に教えていく。人間対人間の技術の継承、人格の継承ができています。繰り返し、繋いでいくという考え方がある。論語では「述」です。

キリスト教の地獄は、もう二度と出られない永遠の牢獄というのが地獄でしたかな。仏

教でいうと、仏教の地獄はキリスト教の煉獄ですね。そういうことで考えると、継承していく、生まれ変わらせていく。

日本の場合は、伊勢神宮を見ていけば技術の継承は自ら手と手で伝えていく、人格も伝えていくことが出来る。

出雲大社の遷宮は六十年毎ですから、運が良ければそういうことは出来る。日本人男性の平均寿命は、昭和 22 年で 50 歳をやっと超えたといえます。そうすると技術の継承といっても、なかなか難しい。だからこれは先祖の技術を教わるのではなくて、出来上がった物を見ながら覚えていく。「盗んで覚えろ」というスタイルだと思います。そういう二通りの式年遷宮の考え方が日本には厳然としてあります。

日本にそのヒントがあり、出雲大社と伊勢神宮を調べて分からなかったら、日本に来てお参りをすると良いでしょう。分かりにくければ愛と魂に関しては、西行法師を研究してくださいという話をしました。

ベルリンの愛と魂に関して最終的な物の考え方は、人間の道德心が欠如したからだと思っています。その時には言いませんでしたが、私が言いたかったことは「会場を御覧なさい。お隣を御覧なさい。前の人を御覧なさい。人間の心は顔に表れる。欲深なる者の顔は欲深なる者の表情になり、心が満ち足りた者の顔は、穏やかで温和で非常に良い顔になる」

今、この場でも良いですよ。お隣さんを御覧なさい。温和で穏やかな良い顔は、知足の顔。そういう顔に皆さんや世界の人がなれば良いと思っています。

地球の環境問題で、大津波だとか原子力など色々な問題が起きた時に、みな目がつき上がってくるけれども、それが穏やかな顔になるにはどうしたら良いか。それは「足るを知る」という考え方を基本として、世界に広げれば良い。「もったいない」は、その前哨戦みたいなものです。「もったいない」が広がったら、その土台の上に「足るを知る」がいけば良い。

ということで、ベルリンのスピーチでは欲深なる者にはなりなさんと世界に対する警鐘であるということです。ローマ法王もこの環境問題が続けばキリストの再来が近いと回勅で流したそうです。

宗教評論家ひろさちやさんは御存命だとは思いますが、確か 80 歳前後です。書いた本の中で、1982 年版のキリスト教年鑑の中で出ていた物の資料ですけれども、キリスト教徒は、その時点で 9 億 9750 万人・22.6%、イスラムが 5 億 8914 万人・13.3%、仏教は 2 億 5487 万人・5.8%、原始宗教は 18 億人・41.6%ということですから、キリスト教世帯といっても、そんなに多くの人数ではない。宗教、宗教といっても、たくさんの宗教があります。でもその中で、たぶん世界を救えるものは「足るを知る」という神道ではないかと感じます。みな受け入れて、みな受容して、みな一体化していく。この考え方はやっぱり日本から発信しなければいけないのではとベルリンで強く感じました。

環境問題その原因を作ったのは何かといたら、やっぱり人数が増えすぎたこともあるのではと思います。江戸幕府は約 300 年間続きましたが、人口は約 3 千万人で安定していました。3 千万人で安定していた国が、鎖国を解いた 100 年ぐらいで 4 倍になっているでしょう。べらぼうに増えた。人口で分かりやすいのは、西暦元年の時には地球上の人口が約 1 億人。それが 2015 年で約 70 億人に増えていきますから、たかだか 2000 年かそこらで約 1 億人が約 70 億人に増えた。人間がこれだけ増え過ぎたってことは、やっぱりこれから減る。そういう時代に間違いなく入っている訳だから、間違いなく減ると思った方がいいですね。これは根本的な愛と魂について真剣に考えなければいけない時代に入った。

## 恒例の質問

・昨日、良い日だったと思う方。

良いことがあったなと思い出していくと、だんだん悪いことを忘れてしまう。自分の心の作用ですから、なるべく良い話を思い出して寝ると翌朝は良い目覚めになる。くれぐれも良いか悪いかを天秤にかけないで、良いことばかりを思い出すと良いという生活習慣になると良いなと思います。

・昨日、嘘をつかなかった方。

手を挙げる時の挙げかたが面白い。ゆっくり挙げる人と、サッと挙げる人、挙げたか挙げないんだか分からない人、結構いるでしょう。皆さん方を見ていて「嘘をつかなかった人」と質問をしますと、パッと石崎評議員が一番後ろでも手が挙がるので、すぐ目がふっとそっちにいきます。やっぱり挙げる時はサッと挙げほうが良いと思います。

・有難うと言ひ、有難うと言われたか。

だいたい女性は手を挙げます。亭主に何かやってあげていると、亭主は大概「どうも有難う」と言っている。

・昨日、何か健康法実践した方。

何もしなかった方のために、腹式呼吸を御紹介します。私、下っ腹が少し出るのですが、下っ腹を押さえて押す。その時に息を口から出す。そうすると自然とお腹に息が入ってくるから、その時お腹をちょっと膨らませる、腹式呼吸になります。だから腹式呼吸のポイントは、下っ腹を押さえて息を出せばいい。手を離せば自然と息が入る。その時お腹を出っ張らせて息を溜める。それだけやると健康法になります。

・寝る時に明日のことを過去形でイメージ出来た方。明日以降のことを過去形でイメー

ジ出来た方。

明日のことを、明日はこういうことが出来て良かったなと思って、やりたいな、やったら楽しいなと思いながら出来て良かったな、と思って寝る癖をつけたらサッと手が挙がるようになったと言っています。楽しいことをイメージする方が良いですね。なるべくそうしましょう。それで明日を過去形でイメージする手法を我が物に出来た場合は、小金持ちにはなれるそうですから。

### 論語の視点（子路第十三 25～27）

今回は、今の政治家に読ませたい文章ですね。

【二十五】子曰く、君子は事え易くして、説ばしめ難し。之を説ばしむるに道を以てせざれば、説ばざるなり。其の人を使うに及びてや、之を器にす。小人は事え難くして、説ばしめ易し。之を説ばしめ易し。之を説ばしむるに道を以てせずと雖も、説ぶなり。其の人を使うに及びてや、備わらんことを求む。

それぞれの組織の長、上司を考えてみて、または家でもよいでしょう。自分の身の周りにいる人達で考えましょう。

「子曰く、君子は事え易くして、説ばしめ難し」例えば、人間性も良い、氣も使ってくれるし奢ってもくれるから非常に良い上司だと思うけれども、その上司本人を本気で喜ばせることは難しい。何故ならば、正しいやり方であれば喜んでくれるけれども、賄賂を持っていても本人はちっとも喜ばない。

今の政治家は、賄賂を持っていけば喜んで、表沙汰になったら「私、知りません。秘書が勝手にやったんです」と、昨日か今日の新聞に、そんなのが出ていました。お氣の毒ですね。

「其の人を使うに及びてや、之を器にす」人を使って仕事をやる時に、適材を適所にやる。

「小人は事え難くして、説ばしめ易し。之を説ばしむるに道を以てせずと雖も、説ぶなり」小人物は、視野が狭く頑固だから、その人に合ったようなやり方をしない限り駄目なので、仕えるのがとても面倒で仕事を一緒にする上では困る。賄賂を持っていけばすぐ喜んでくれる。小人物を喜ばせるのは簡単だが、一緒に仕事をするのは、御免だということです。

「之を説ばしむるに道を以てせずと雖も、説ぶなり」今の政治家は、こればかりだと私は思います。それから官僚も似たようなもので、その最たるものが中国かな。賄賂を仕

組みとして受け取る国。日本人は賄賂を仕組みとして受け取らないようになっているけれども、絶対に分からないとなれば「そうかい」と言って貰う人が何と多いことか。

「其の人を使うに及びてや、備わらんことを求む」人を使うときは、完全無欠な人間を要求する。そんなもの無理です。出来ないことを無理やり要求しても出来ないです。出来るか出来ないかを、人を使う側は見抜かなければいけないと、読みましょう。

**【二十六】** 子曰く、君子は泰にして驕らず。小人は驕りて泰ならず。

これはもう自分で自戒してみれば良いし、周りを見る時もそうです。「泰」はゆっくり、ゆったり歩く。ゆっくりゆったり行けば、馱でぶつかったりはしないです。これは体に良い。「驕らず」は、人を侮って威張り散らす。ですから「君子は泰にして驕らず」君子は、ゆっくりゆったりしていて、威張らない。小人は、威張ってゆったり構えられない。

**【二十七】** 子曰く、剛毅木訥は仁に近し。

「剛」は何があっても屈しない、曲げない。「毅」は忍耐力が強い、守りにまわった時はすごく力を発揮する。「木訥」は飾らない、訥は口下手。ちょっと鈍いんじゃないのと言われるようなところまで人物が出来上がると、たぶん悟りの最大の境地に繋がると思います。

山田方谷の愛弟子に川田甕江と三島中洲がいます。山田方谷は、川田には剛という名前を、三島中洲には毅（き）という名前を与えています。「剛」は川田に、「毅」は三島にということで二人あわせて一人前みたいに言ったのでしょうか。二人とも文章・漢詩・漢文を作る上においては、明治時代の傑出した才能です。

ちなみに三島中洲は、先生から戴いた名前は「毅」だけれども、自分が好きなのは木訥である。木訥は質素で口も驕らない、清貧、清廉潔白であるということです。

## 紹介書籍

『けちのすすめ』ひろさちや著 朝日出版社

良いことが書いてあります。

## 時事評論

10月のテーマとしては環境問題の行き詰まり。これはベルリンでのスピーチで先程申し上げましたし、紹介の書籍は回っております『けちのすすめ』というのは、儉約というふ

うに考えたらいいいし、それをもう一步進めると、小欲、知足のすすめです。我々からいえば「知足のすすめ」ということのでございます。

10月8日の読売新聞・夕刊で「児童虐待、過去最悪の8万8931件」とありました。

「親が子供を殺す、子供が親を殺す民族は滅びる」と、マヤの長老の話があります。文明社会から隔絶されて生きている長老の科白です。でもここで見ると「児童虐待、最悪8万9千件」なんていうのは、マヤの長老は何と言うだろう。こういうことを見続けていると我々も感覚が麻痺しますから、時々はっと見る必要がある。後は、お隣がホルクスワーゲン排気ガスの不正問題の記事が出ていました。

これは今日(10月10日)の読売新聞で、「あしなが創設者アメリカで勲章」とあります。あしなが育英会の創設者で会長の玉井義臣さん80歳が、エレノア・ルーズベルト・ヴァールキル勲章の受章が決まったと書いてあります。日本人の受賞者は、緒方貞子さんで二人目です。

世の中がどんどん変わってきていると思うので見ると、これは8日「外来スズメバチの巣、北九州に」ということですが、この間、蜂にまた刺されました。蜂って、よく刺します。だから少し蜂に詳しくなりました。スズメバチに刺されるのはいけないね。一回刺されると抗体が出来るそうですから、2回目は注意しなければいけない。

私は今まで蜂の巣は上の方に出来るものだと思っていました。そしたら蜂の巣は、草の下にいっぱい出来るんですね。それでスズメバチに刺されると2回目は危ないと頭の中に入れていてピリピリしていたら、この間、嵐山に行きまして「この道を通りましたか」と聞くから、「こっちが近いから通りましたよ」と言ったら、「帰りはこの道を通らないで」と言うから聞くと「スズメバチの巣が出来ているのですが、でも、せっかくだから御紹介しましょう」と、所長から先生から皆ぞろぞろ出てきて見せてくれました。二階の屋根の下に大きい巣が出来ていて、たくさん飛んでいました。それで、あの下を通る時は静かに通って、走ると襲って来るからと言っていました。

それから今日の読売新聞(10月10日)、ノーベル生理学・医学賞の受賞が決まった大村教授「微生物の力 語りたい」と出ていました。

色々な環境問題や微生物の力…何でかなと思ったら、何のことはない。さっき申し上げた西暦元年1億人の人類が70億になった。それでグローバルだという。日本の場合でも美味しいものを食べたいと言ったら、ある国のひとつの村が潰れるような農産物の買い方を日本人はする。お金で横っ面を引っ叩いて、世界各地から色々な物を集めてきて、それで食べる。どこかおかしいです。

地球全体がグローバル化して、どこの物でも食べられるようにしてしまった事自体がお

かしい。これからの地球、これからの日本は、自分で自分の食べ物は作る。自国の中で自分たちが食べる物を作る。自給自足でいかなければならない。

理想的な国家は、日本の江戸時代末期あたりに焦点を絞って、これからの人類は進んで行かなければいけないと考えます。これが言葉でいけば「足るを知る。その世界」それでベルリンのスピーチに戻りますと、知足は世界が救われていく思想であるということになります。

本日はここまでとします。有難うございました。